

CITY OF YOKOHAMA

横浜市と日本航空株式会社が 持続可能な航空燃料の製造推進に関する 連携協定を締結

市民の皆様から廃食油の回収を促進します

2024年2月28日
市長定例記者会見

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

持続可能な航空燃料（SAF）とは

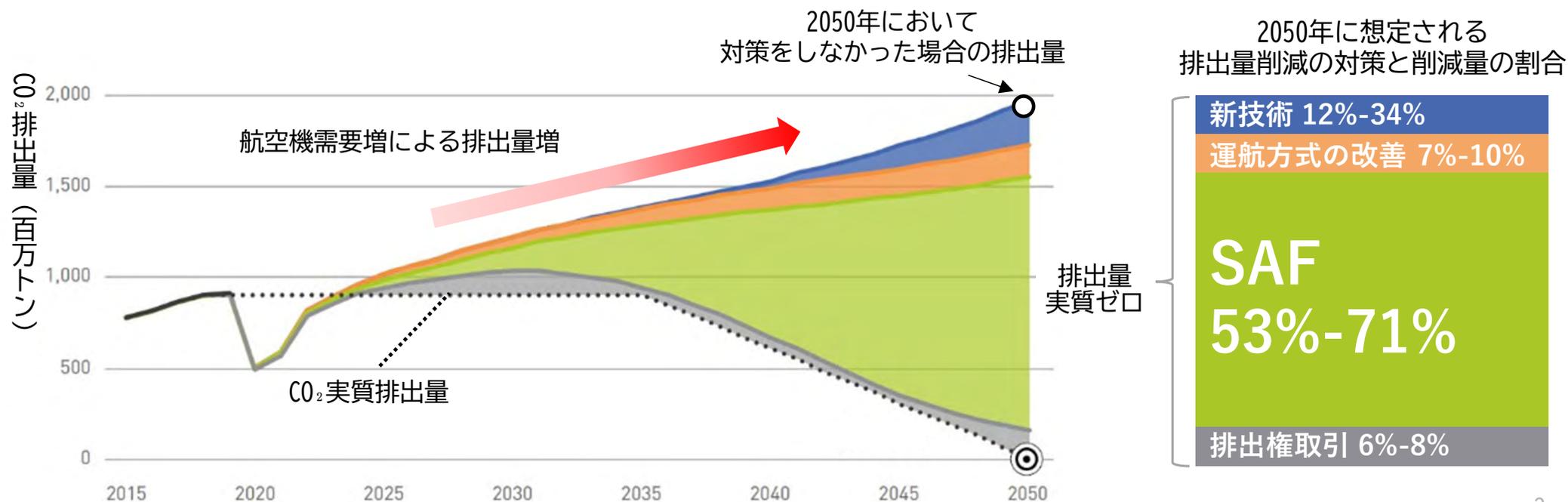
- SAF（=Sustainable Aviation Fuel）とは、植物に由来する廃食油やバイオマス素材など循環型の原料で製造された航空燃料のこと
- 化石燃料と混ぜて使用することができ、既存インフラの更新が不要
- 廃食油からSAFを製造した場合、ライフサイクルで約80%のCO₂が削減可能※

※出所：運輸総合研究所 我が国のSAFの普及促進に向けた課題・解決策



持続可能な航空燃料（SAF）製造に取り組む意義

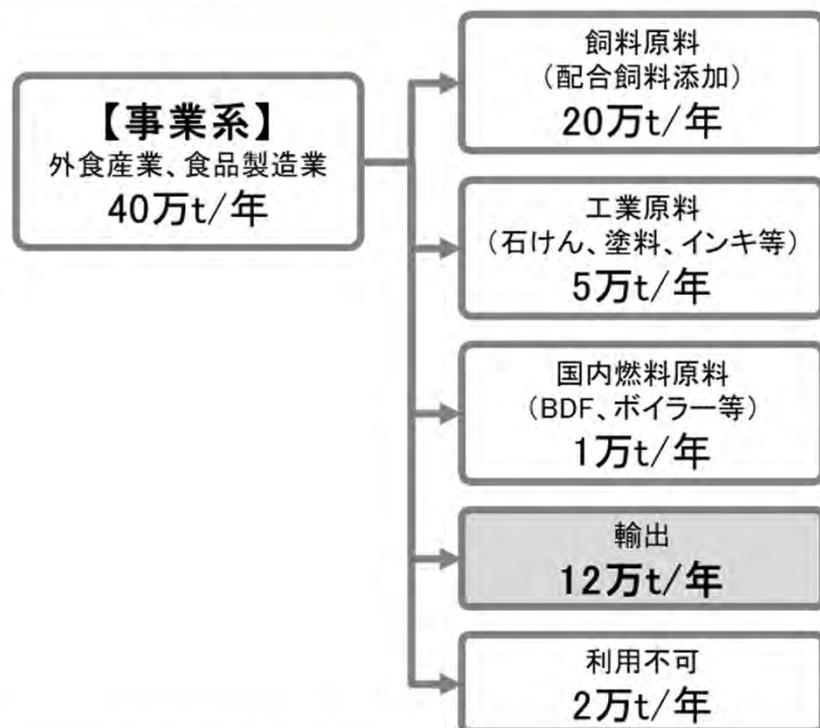
- 国際民間航空機関（ICAO）は、2050年にCO₂排出量実質ゼロの目標を採択
- CO₂排出削減の手段としてSAFが削減量の5～7割分を担うことが期待されている
- 国も2030年までに国内で使用される航空燃料の10%をSAFにする目標を設定



出所：Air Transport Action Group Waypoint 2050 シナリオ1～3より作成

廃食油回収の現状・課題

■ 廃棄油脂及び油脂製品の流れ



【家庭系】
10万t/年

個別回収プロセスが確立しておらず、ほぼ手付かずに近い状態。今後の原料確保のカギになる。

- **2025年以降**、廃食油を原料とした複数の**国産SAF製造施設が稼働**する見込み
→近年SAFの原料としての需要が拡大しており、海外への輸出が急増、**国内で原料不足**の状況
- 事業系から排出される廃食油は、回収・再利用のプロセスがすでに構築されている
→**家庭から排出される廃食油**は、回収の仕組みが確立しておらず、**多くが廃棄**されている

市民の皆様が廃食油のリサイクルに参加しやすい環境を整え、回収拡大に貢献

横浜市と日本航空株式会社との連携事項

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA

01

廃食油のSAF化の一連の仕組みの構築及び社会実装に関すること

02

廃食油のSAF化についての市民への広報・普及啓発に関すること

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA



JAPAN AIRLINES

仕組みの構築及び社会実装に向けた取組

- 取組の第一弾として、株式会社ダイエーの運営する
イオンフードスタイル鴨居店にて廃食油の拠点回収を実施
- 機運を高めるための普及啓発イベントを店舗で実施
JALの乗務員・整備士によるPR、VRによるSAFの製造工程の体験など、
市民の皆さまに楽しんでいただきながら参加を呼びかけ



イオンフードスタイル鴨居店



VRによる啓発



普及啓発のイメージ

廃食油の拠点回収

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA

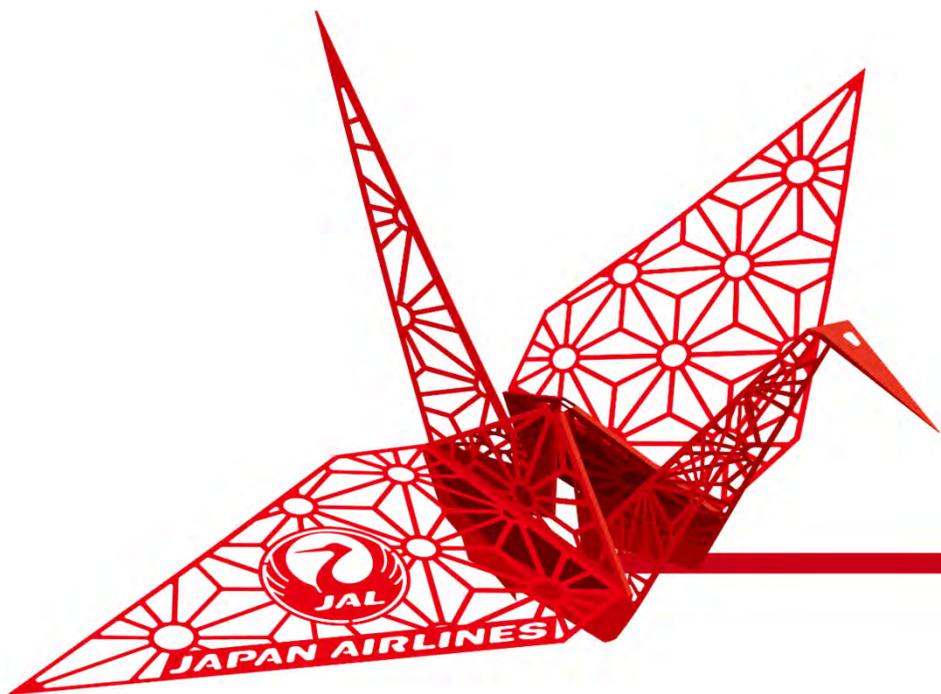
- 店舗に廃食油の回収ボックスを設置
- 回収ボックスに廃食油を直接流し込みにて回収
各ご家庭から専用の回収ボトルで油を持ち込み、
回収後は持ち帰って再利用



各家庭専用回収ボトル(イメージ)



店舗用回収ボックス(イメージ) 6



JALグループのサステナビリティ SAFの普及・拡大に向けた取り組み

日本航空株式会社

2024年2月28日(水)



JAPAN AIRLINES

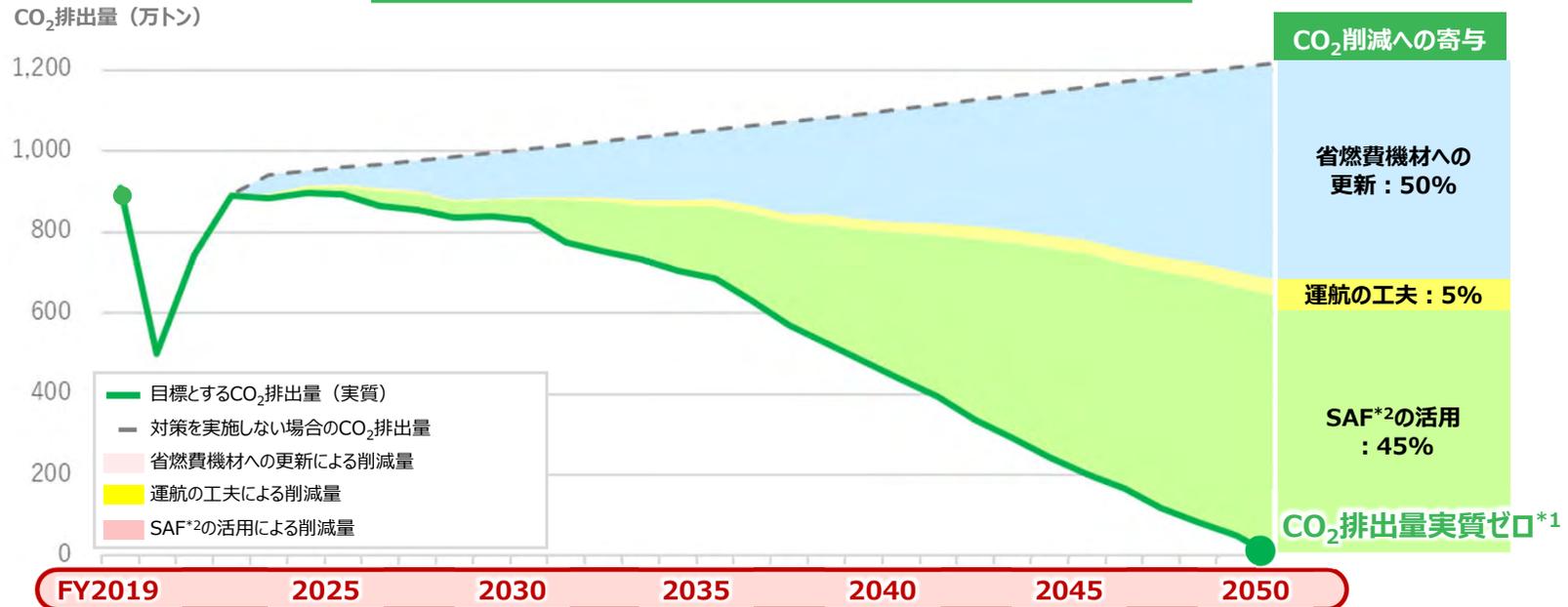
JALグループ°中期経営計画

～2050年CO₂排出量実質ゼロに向けて～



中期経営計画

JALグループのCO₂排出量実質ゼロ*1に向けたロードマップ

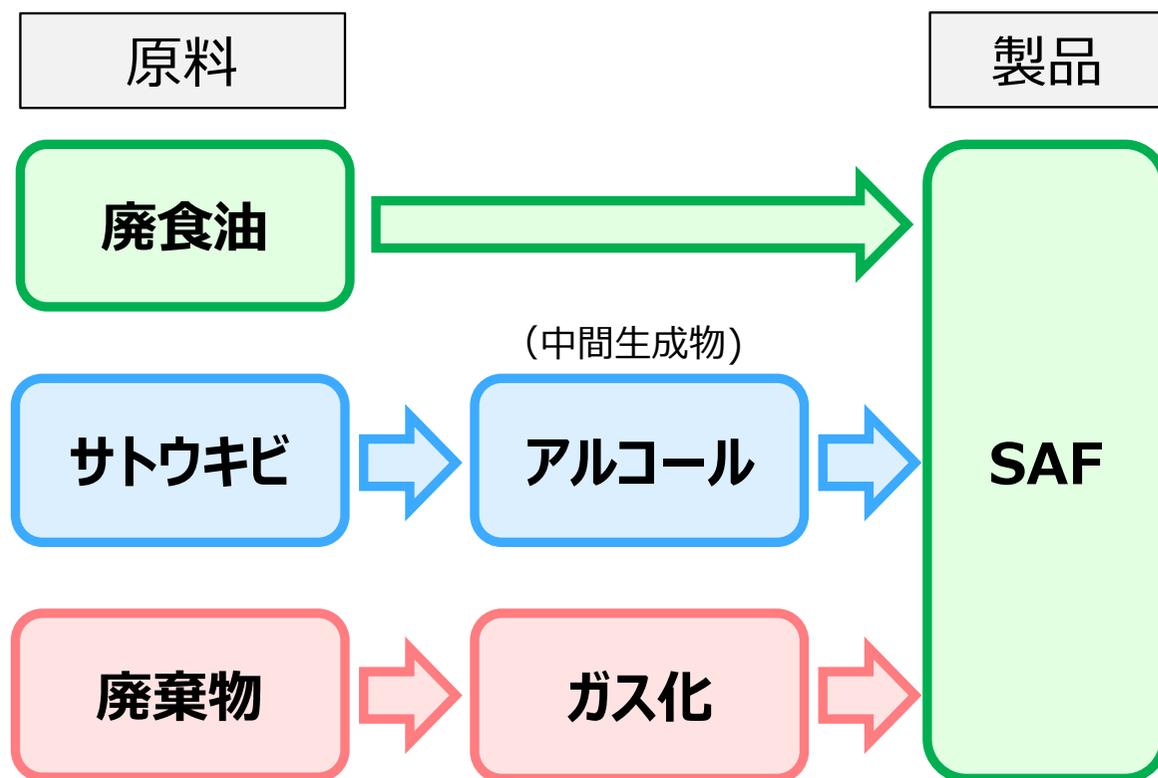


省燃費機材への更新	当面は最新鋭の省燃費機材を活用し、将来的には水素や電動などの新技術を使った航空機を導入
運航の工夫	自社の取組み (JAL Green Operations) に加え、管制機関・航空会社・空港運営会社等、業界全体で協働を推進
SAF*2の活用	脱炭素社会を目指すステークホルダーとの協働により、SAF*2の供給量を確保するとともに費用削減を推進

*1：事業活動による実際のCO₂排出量と、施策による削減量との均衡を達成すること = Net Zero Emission (排出権取引やCCS(CO₂吸収技術)などの活用も含む)

*2：Sustainable Aviation Fuel = 代替航空燃料

【原料と製造方法】 国産SAF製造における課題



課題

- 航空燃料の全量をまかなえるだけの単一の原料はない
- さまざまな原料からSAFを製造する必要がある
- 廃食油以外の製造方法については大規模な商用化はこれから
- 国産SAFの製造量を増やすために未利用の廃食油の最大限の活用が必要



みなさまからのご協力を得られるよう
SAF利用者としての取り組みが必要

回収・リサイクルの流れ (SAFへの利用は2025年以降)



今後のスケジュール

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA

日程	内容	普及啓発イベント (店舗前広場にて開催)
3月16日(土)、17日(日)	回収トライアル1回目	両日開催
4月20日(土)、21日(日)	回収トライアル2回目	両日開催
5月13日(月)～19日(日)	回収トライアル3回目 (本運用試験期間)	18日(土)、19日(日)開催
6月5日(水)～	本格回収開始	

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA



JAPAN AIRLINES

脱炭素社会を目指し
廃食油のSAFへの利活用に関する取組に
連携して取り組んでいきます